

審議会会議録

審議会等の名称	令和6年度 第2回瑞穂市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年10月25日(金曜日) 13時30分～15時10分
開催場所	瑞穂市役所 第2南庁舎 2階 大会議室
議題	(1) 瑞穂市こども計画骨子案について
出席委員	秋山博委員、朝日美妃委員、河村岳昌委員（副会長）、清水恵子委員、高見順委員、田中佳織委員、土岐祥子委員、成瀬幸太郎委員、西垣吉之委員（会長）、矢野幸子委員、若園明裕委員、割石裕美子委員
欠席委員	豊田千晶委員、矢崎斉委員、渡瀬広子委員
公開区分	公開
傍聴人数	0人
審議の概要	1 開会 委員15名のうち、12名が出席。出席者が過半数以上となり「瑞穂市附属機関設置条例」第8条の規定により会議が成立した。 2 あいさつ 健康福祉部長よりあいさつ。 3 議題 「瑞穂市審議会等の設置、運営等に関する要綱」第11条の規定により原則公開することを確認した。 本日の傍聴者はなし 会議録については要点筆記とし、発言した委員の氏名は実名表示しないことを確認した。 事務局より資料1「瑞穂市こども計画」骨子案について説明 基本理念（案）と計画体系を中心に、審議依頼。 （質疑・意見） 【副会長】 事前に基本理念で「すべての子ども・若者がしあわせに暮らせるまち・みずほ」「暮らすまち・みずほ」と言うことで2つご提案がありましたが、2つともにい

	い表現です。「暮らせる」はこれからの肯定的なイメージで、向き合っていくような、メッセージ性も担保できるような表現でもあります。 【A委員】 瑞穂市は「健幸のまち」を掲げているし、身体を動かすということもあるにも関わらず、公園で遊ぶときにボールも使えない、何も使って遊べない、高学年から中学生のこどもの居場所がないことを実感しています。今の理念もいいですが、「健幸」的なものをいれてみてはどうでしょうか。 【B委員】 「暮らせるまち」は新たに来てくれる人に向けてのメッセージで、「暮らすまち」は、今住んでいる方に向けてのメッセージかなと思います。 この目標は瑞穂市中のことなので、すごく大きい目標です。こどもまんなか社会ということで、こどもを中心に考えて、私にできることは目の前にいるこどもたちのためにフットワークを軽くして取組むことかと思います。 【C委員】 言葉よりも公共施設の使い方は見直すべきだと思います。こどもたちが求めているような憩いの場所が必要です。スクールミーティングの意見に対していつこれをどうしますというのは全く見えてこないの、言葉も大事ですが、そういうことを話し合う場にしてほしいと思っています。 この要望は何年以内に実行しますとか、アンケートを取った結果の切実な意見だと思うので、すぐ解決できることがあるならやはりそれも載せていただきたいですし、長期に時間がかかるものならそれもそうやって書くべきではないかなという風に思いました。 【会長】 どうしても計画ですので、これに対する評価をどんな風に考えるかというのは1つ視点として持っていないといけません。新しい取組というのが多く出てきているので、どこに焦点をもって考えて、どこまでが実行可能であろうかということも見越しながら、計画を策定していかないといけません。 【D委員】 理念や体系は抽象的で、本当にこれができたら理想だと思います。先日、少年の主張で「南小学校のそばの公園のバスケットゴールが知らない間に撤去された。私たちの意見も聞かず、撤去された。」とありました。大人の私たちは地域住民が何か言ったのだろうと考えますよね。夜遅くまでやっているとか。全てを鵜呑みにするわけではないですが、何をするにでもこどもの意見を聞いて、こどもたちと同じテーブルにのって、大人や地域住民はこう思っている。じゃ、君たちはどう考えるのか、という丁寧な話合いの機会をつくっていくことがこどもたち
--	--

の力を育てていくのではないかと思います。

【会長】

行政のほうで、計画の細かな素案を作っていくと思いますが、予算が関係するので、そのあたりがかなり難しい。こどもたちの意見表明の機会、今回、こども計画の中には当然盛り込まないといけない。でも、それが全部鵜呑みにできるわけではないです。よってことも必要です。

【B委員】

基本目標1の「ライフステージに応じた切れ目のない支援」が誰に向けてやっているのかが分かりにくいです。

【事務局】

別の案としては、施策が妊娠出産の支援から始めることから「親と子の健康支援」という表現を使いたいと考えていますが、いかがですか。

【会長】

今こども家庭庁から誕生前からの「はじめの100か月の育ちビジョン」施策があり、保健師は生まれる前から関わって成長を見届けて、途中でいろいろな家庭で課題が出てくるようになり、成長とともに保健師が手を引く時期がきて、保育所や学校に代わって7歳くらいまでの間に切れ目が多いことから育ちを支える切れ目のない支援をしていこうという施策ですね。

【副会長】

市民に発信をするときは、できるだけわかりやすく、かつ総合的に見て、その解釈がある程度伝わるようなものがないと思いますので、健康か成長段階というところをもう少しまくまとめたような表現というところ事務局で検討していただいていいと思います。

【委員E】

文章ばかりで視覚的にイラストも入れたほうがいいと思います。外国人もいますし、日本語を理解できない人が見てもわかるくらいにしたほうがいいと思います。

【委員A】

市長がこどもまんなか宣言されていましたが、何がこどもまんなかなのか正直わからずに過ごしています。放課後こども教室も始めますと聞いていますけど、いつから始まるのかも気になっています。

【事務局】

来年から開始の予定です。

【委員 A】

こういう居場所づくりをするときに、分かりやすいようにアピールポイントとして、こども計画にも入れてもらえるとはっきりして、こどもまんなかだと瑞穂市が目指すところがわかると思います。

【会長】

基本的な理念があって、基本的な視点があります。目標のところも、例えば順番で、今回の計画は、これがやっぱり私たちはぜひ売りにしたいというものが上から順番にあったほうがいいとか、そこにより分かりやすい文言がそれに付随して、何年までにこどもが自由に遊べる公園をつくりますとかの流れというのをうまく酌んでいただいたほうがいいと思います。

まんべんなく並べるのではなくて、瑞穂市として、重点で、これはもう絶対やりますよという示し方をしていったほうがいいと思います。

【委員 F】

皆さんのお話を聞いていて、最初に思ったのは、予算です。市民のお金を使うことなので、市民の理解というか、そういうものをまず醸成していくような行政のPRの仕方、それと、こどもたちがこれだけ具体的にやってほしいという内容が出ています。これは本当に読んで、すばらしいなと思いました。こういった中で、やっぱり安全、安心といった部分は、地域の安全という意味からも早く実現してあげて、事故が起こらないようにしてほしいというふうに思います。いろいろなものを実践する上で、既存の施設なんかを有効活用するという方法や建物を建てたらいいという、そういう問題ではないと思います。今、建物を建てると後が大変。公園をつくれば後が大変。草木の管理やほとんど利用されない公園なんというの也有ります。公園を維持管理していくというのはまた大変だし、その辺をどう考えていくかということもあると思います。

【副会長】

何を重視していくかというところが1つでも、大きなメッセージ性になるようなものが、瑞穂市で今何に力を入れているのか、今何が売りなのかとか、これは進んでいるなみたいなのをもう一回振り返るような形で、素案のときにそこを詰めていければいいのかと思います。

	【事務局】 連絡事項として次回の会議１２月２４日開催を案内 ４ 閉会
事務局 (担当課)	瑞穂市 健康福祉部 子ども支援課 TEL ０５８－３２２－３０２２ FAX ０５８－３２７－１５６６ e-mail kosien@city.mizuho.lg.jp